

(様式-1)

栃木県公共事業事前評価・自己評価書 [県土整備部 道路事業]

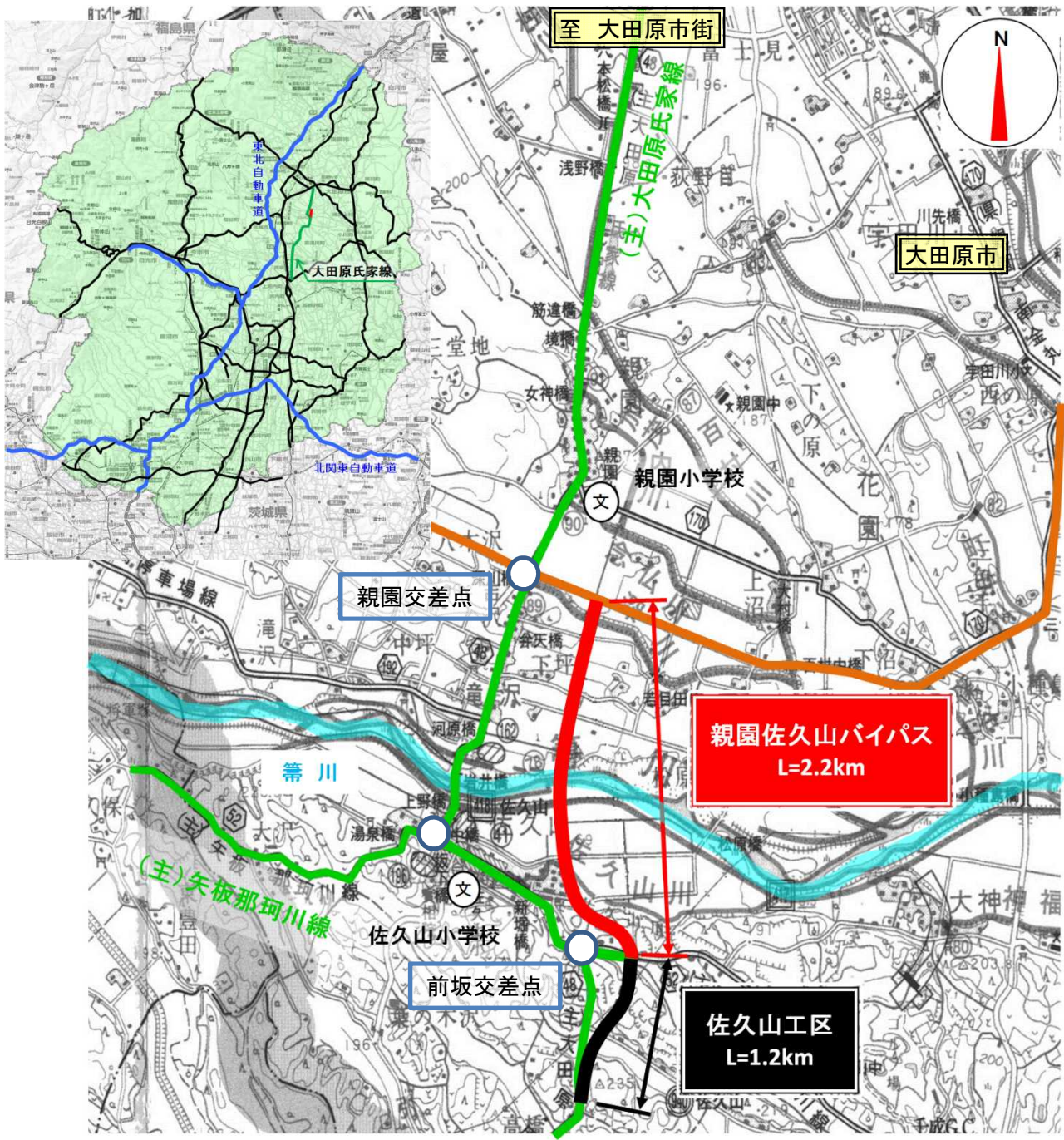
1/2

事業概要調書											
1 事業名	快適な道づくり事業										
2 事業箇所	主要地方道大田原氏家線 大田原市親園 ^{ちかそのさくやま} 佐久山バイパス工区										
3 事業の概要	(1) 事業目的 <p>主要地方道大田原氏家線は、栃木県大田原市新富町を起点とし、栃木県さくら市櫻野に至る延長約24kmの幹線道路である。</p> <p>本路線は、西側に並行する一般国道4号の補助幹線として、沿線には産業団地等が立地し、県北部地域の物流や通勤等の日常生活を支える重要な路線である。</p> <p>親園佐久山バイパスは、箒川を渡河し、大田原市の佐久山地区と親園地区を結ぶ延長2,200mの2車線道路であり、本バイパスの整備により、県北部地域の道路ネットワークの強化を図るものである。</p> <p>親園佐久山バイパスは以下を事業目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現道の混雑緩和 ・自動車・歩行者自転車の交通安全確保 ・地域経済・産業活動支援 										
	(2) 事業内容 <p>【計画の考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現道は、道路幅員が狭小で道路線形が悪く、縦断勾配が急であるが、沿線は人家連担地域で拡幅・線形改良が困難であることから、佐久山地区を迂回する延長2,200mのバイパス道路を整備する。 <table border="1"> <tr> <td>全体延長 : 約 2,200m</td> <td>現況交通量 (H22年) : 10,195 台/日</td> </tr> <tr> <td>道路幅員 : 12.0m</td> <td>計画交通量 (H42年) : 6,800 台/日 (BP)</td> </tr> <tr> <td>車線数 : 2車線</td> <td>: 3,400 台/日 (現道)</td> </tr> <tr> <td>道路区分 : 3種2級</td> <td>設計速度 : 60km/h</td> </tr> <tr> <td></td> <td>構造物等 : 橋梁 1橋</td> </tr> </table>	全体延長 : 約 2,200m	現況交通量 (H22年) : 10,195 台/日	道路幅員 : 12.0m	計画交通量 (H42年) : 6,800 台/日 (BP)	車線数 : 2車線	: 3,400 台/日 (現道)	道路区分 : 3種2級	設計速度 : 60km/h		構造物等 : 橋梁 1橋
	全体延長 : 約 2,200m	現況交通量 (H22年) : 10,195 台/日									
	道路幅員 : 12.0m	計画交通量 (H42年) : 6,800 台/日 (BP)									
	車線数 : 2車線	: 3,400 台/日 (現道)									
道路区分 : 3種2級	設計速度 : 60km/h										
	構造物等 : 橋梁 1橋										
(3) 事業予定期間	<table border="1"> <thead> <tr> <th>期 間</th> <th>事 業 内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 25 年度～平成 27 年度</td> <td>用地調査、用地取得</td> </tr> <tr> <td>平成 28 年度～平成 33 年度</td> <td>工事実施</td> </tr> </tbody> </table>	期 間	事 業 内 容	平成 25 年度～平成 27 年度	用地調査、用地取得	平成 28 年度～平成 33 年度	工事実施				
期 間	事 業 内 容										
平成 25 年度～平成 27 年度	用地調査、用地取得										
平成 28 年度～平成 33 年度	工事実施										
(4) 事業費及び内訳	<table border="1"> <tr> <td>事業費</td> <td>約 25 億円</td> </tr> <tr> <td>事業費内訳</td> <td> 工事費 : 約 19.3 億円 用地補償費 : 約 4.2 億円 測量設計費 : 約 1.5 億円 </td> </tr> <tr> <td>財源内訳</td> <td>国費 : 55%、県費 : 45%</td> </tr> </table>	事業費	約 25 億円	事業費内訳	工事費 : 約 19.3 億円 用地補償費 : 約 4.2 億円 測量設計費 : 約 1.5 億円	財源内訳	国費 : 55%、県費 : 45%				
事業費	約 25 億円										
事業費内訳	工事費 : 約 19.3 億円 用地補償費 : 約 4.2 億円 測量設計費 : 約 1.5 億円										
財源内訳	国費 : 55%、県費 : 45%										
(5) 事業発案の経緯・背景	<ul style="list-style-type: none"> ・本工区南側に接続する佐久山バイパスが平成22年度に完成供用済 ・大田原市からの早期整備要望 										
4 県計画への位置付け	栃木県の道路・交通分野の将来構想である「人にやさしい県土60分構想」に基づき、都市内における拠点を結ぶとともに地域の生活を支える安全で快適な道路づくりを目指す。										
5 他計画・他事業との関連	特になし										
所轄部課名	県土整備部 道路整備課										

別添図面・・・事業位置図

事業評価調書	
事業名	快適な道づくり事業
1 事業の必要性	<p>本路線は、県北部の日常の生活を支える重要な路線であるにもかかわらず、親園・佐久山地区の現状は、以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝夕の通勤時に交通混雑が発生 前坂交差点：最大渋滞長 300m、混雑度 1.17 (H22道路交通センサス) ・現道は狭小で道路線形が悪い 最小幅員 6.3m (8.0m)、最小曲線半径 30m (150m)、最急縦断勾配 5.4% (5.0%) ※()内は道路構造令の設計速度60km/hの時の望ましい値 ・交通事故が発生 交通事故発生件数 H17～H22：48件 (8.0件/年) ・佐久山中学校及び佐久山小学校の通学路に指定 自転車数 94台/12h、歩行者数 95人/12h (H22道路交通センサス)
2 事業の適時性	<ul style="list-style-type: none"> ・本工程南側に接続する佐久山バイパスが平成22年12月に供用開始された。
3 事業の適地性	<ul style="list-style-type: none"> ・本工程の現道区間は本路線の最大のボトルネックとなっており、本工程南側に接続する佐久山バイパスが完成しており、本工程と併せた一体的な整備効果を発現させるために本工程を事業適地であると判断した。
4 事業手法の適切性 (県が事業主体となる理由等)	<ul style="list-style-type: none"> ・主要地方道大田原氏家線の道路管理者である県が事業を実施する。
5 事業により予想される効果及び影響	<ul style="list-style-type: none"> ○経済効果 (完成2車線) <ul style="list-style-type: none"> ・費用便益比 (B/C) 1.9 ・総便益 (B) 44 億円 ※ 総便益は、供用後 50 年間の効果を金銭に換算したもので、走行時間短縮、走行経費減少、交通事故減少効果等の合計である。 ・費用 (C) 23 億円 ※ 費用は、建設費に供用後 50 年間の維持管理費を加算している。 ○現道の混雑緩和 <ul style="list-style-type: none"> ・バイパスを整備することにより、各交差点での混雑の緩和が図られる。 ○自動車・歩行者自転車の交通安全確保 <ul style="list-style-type: none"> ・道路線形の改善が図られる。 計画値：最小幅員 12.0m、最小曲線半径 210m、最急縦断勾配 4.0% ・通過交通がバイパスに転換することにより、現道の交通事故の減少が図れ、自動車及び佐久山中学校・佐久山小学校の生徒児童等の歩行者自転車の交通の安全が確保できる。 ○地域経済・産業活動支援 <ul style="list-style-type: none"> ・バイパスを整備することにより、大田原市～さくら市の旅行時間が現道利用に比べて約2分短縮される。沿線・近隣の産業団地等へのアクセスが向上し、地域経済・産業活動の支援となる。
6 事業コスト縮減等の可能性	<ul style="list-style-type: none"> ・公共工事コスト縮減行動計画 2010 (平成 22 年 7 月栃木県) に基づき、設計・施工各段階においてコスト縮減を検討する。

(主)大田原氏家線 親園佐久山バイパス 位置図 S=1:50,000



【標準横断面図】

